

The collage consists of 24 small photographs arranged in a 4x6 grid. The photos show various scenes from the 'Rokuro Kage' film festival. Some photos show people walking on streets, some show people sitting at tables, and some show people standing in front of a building. One photo shows a group of people sitting on the ground in front of a building with a sign that reads 'Rokuro Kage'.

2015.12~2016.11

Urban Design School Matsuyama

Vol.2



目次

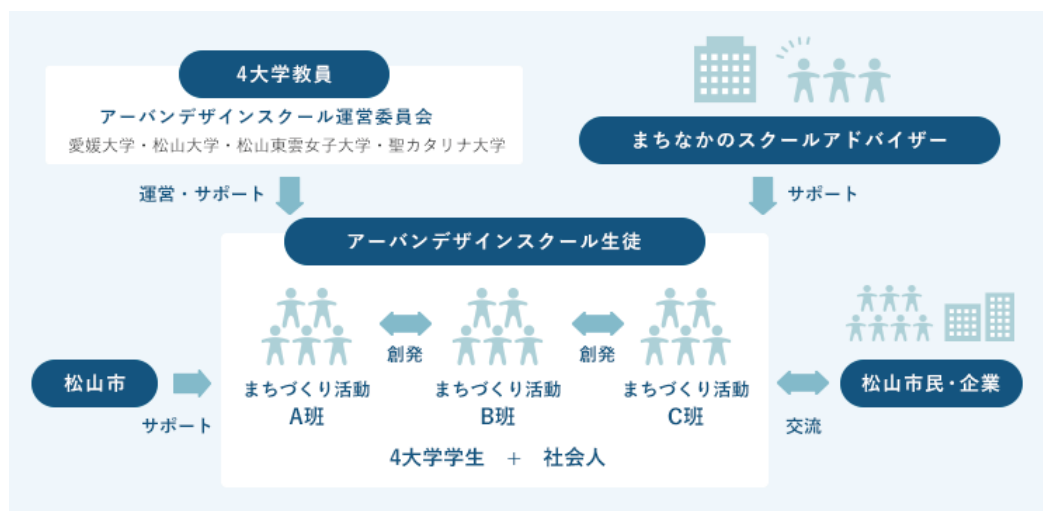
アーバンデザインスクールとは	2
スケジュール	3
松山アーバンデザインスクール第2期開始	4
プロジェクト実施報告	
椿のおもてなしプロジェクト	6
三津(みつ)けた!私のまちの写真館プロジェクト	10
まつトラムラリー	14
名もなき公園プロジェクト	18
Family's Story プロジェクト	22
路地裏映画館 in 柳井町商店街	26
ジモティ Life 松山	30
最終発表会	34
アーバンデザインスクール運営委員会から	36

松山アーバンデザインスクールとは

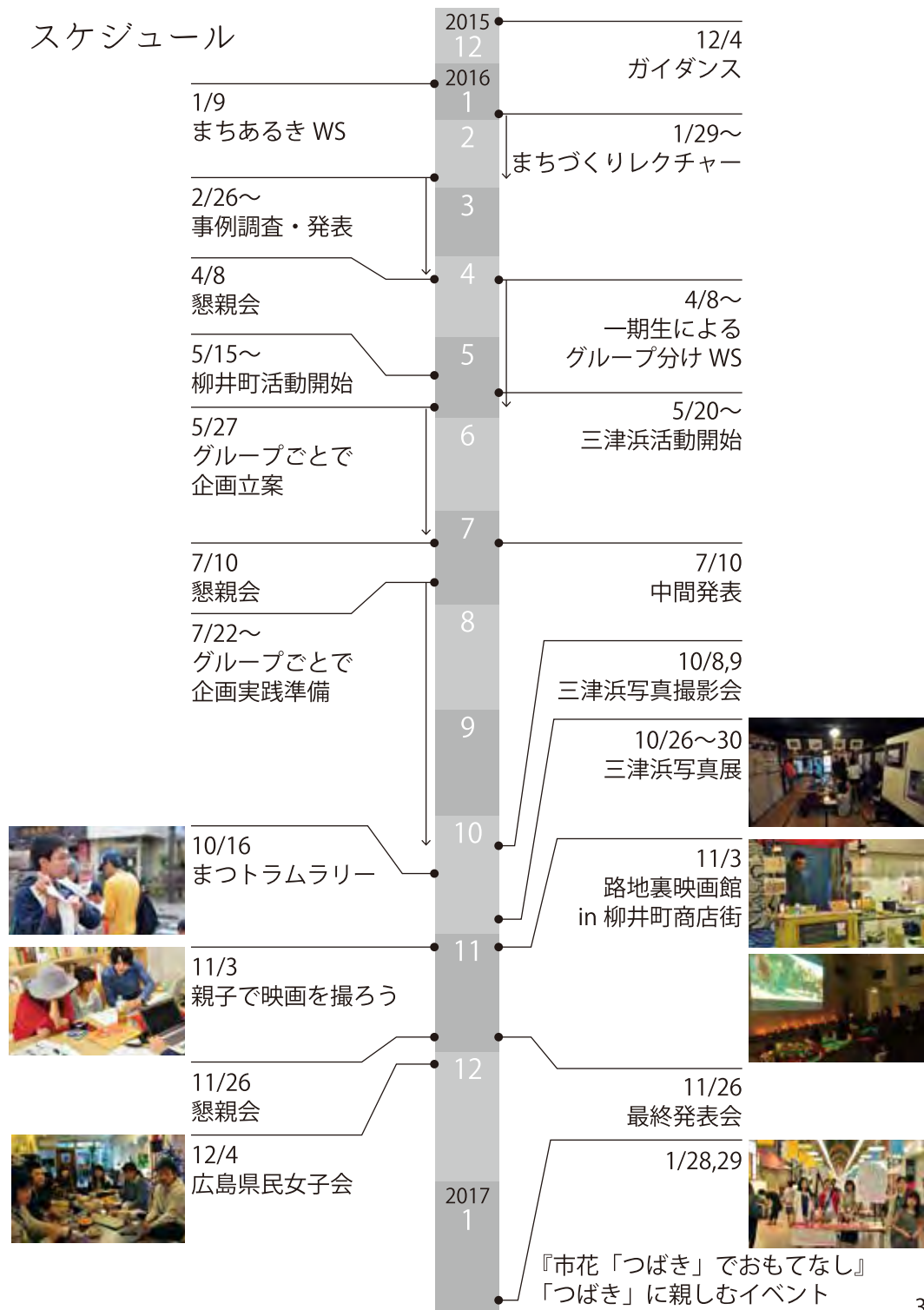
アーバンデザインスクールとは、将来のまちづくりの担い手を育成するとともに、まちなかのファンを増やすことを目的として開講する「まちづくりを実践的に学ぶ市民参加型の学習プログラム」である。

松山アーバンデザインセンター（UDCM）が母体となり、松山市内の4大学（愛媛大学・松山大学・聖カタリナ大学・松山東雲女子大学）の教員が運営委員会を組織して活動を遂行しており、まちなかのスクールアドバイザーとして、まちづくりを実践されている方、地域の商店主の方、NPO、まちづくり組織、起業家の方など、各分野で活躍している方からも支援をうけている。

2期目では、総勢 29 名（大学生 21 名、社会人 8 名）のスクール生が、7つのプロジェクトチームにわかれ、まち歩きやレクチャー、ワークショップを通じてまちの課題や魅力を発見し、地域住民との意見交換、協働を経て、その中で自ら成長していくと共に、まちの歴史や文化に根ざした松山市ならではの魅力的なまちづくり活動に結実させていった。



スケジュール



松山アーバンデザインスクール第2期開始 2015年12月

ガイダンス



まちあるき



グループ分けワークショップ



中間発表



椿のおもてなしプロジェクト

椿が香る ... そこは松山。

青山恒佳・武井泰子・竹中優子・田所佳奈・村上千空・柳原捷吾・渡部千恵美

椿と道後

『温泉の周囲には椿の樹が茂って温泉を取り囲み、その壮観なことは、実にたくさんのキヌガサをさしかけたようにみえる』(聖徳太子の道後行啓(西暦596年)を記念した碑(椿の湯前))。現在でも、椿は道後地区をはじめ市内の至る所で見られる。→道後と椿の縁は古く、深い。



椿とまちづくり

椿を県木・市花等に定める自治体多数(2県と57市区町村)、地域独自の商品(椿油など)を販売している企業多数、椿をまちづくりに活用し始めた自治体もある。
→「香り」には、未だあまり着目されていない。

香りの効果

香りは、人の感情・記憶と深く結びつき、過去のシチュエーションや印象と共に記憶に残る。
→椿の香りで松山を思い出してもらおう！

スケジュール

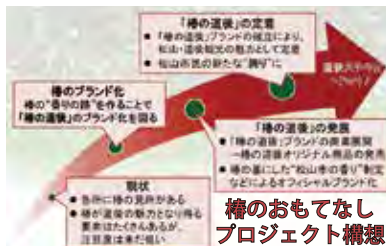
5月・6/18-7/30(土曜)	椿の香り商品の作成 銀天街土曜夜市
7/18	宝蔵寺コンサート
8/1~2	道後温泉夏まつり 2016
8/27	円満寺長寿まつり(道後の円満寺)
10月・	1/28 椿のイベントに向けた準備
11/18	ビジネスプランコンテスト「最優秀賞」受賞
11/26	「木春」ブランドの発表

コンセプトと構想

私たちは「椿を松山・道後の新たなブランドにする」というコンセプトの下、椿を道後の新たな観光の要素として落ち着いたお洒落なイメージを作ることを目指し、第1期から継続して活動している。

現在、道後にはいたる所に椿の見所があり、椿は道後の魅力のひとつではあるものの、あまり注目されていない。

プロジェクトの構想として、まず、道後に椿の「香りの路」を作ることによって『椿の道後』のブランド化を図る。その後、『椿の道後』の発展として「椿の道後」ブランドの商業展開、と、松山市による椿の香りの制定によるオフィシャルブランド化を目指す。そして、松山・道後観光の新たな魅力として『椿の道後』の定着を図り、松山市民の皆さんにとって新たな誇りにしていきたい。



第1期(2015)の取り組み内容

第1期では、松山の椿をイメージして独自に配合した香りを用いて、体験イベントや香りの演出イベントを実施した。

まず、道後温泉夏祭りのオープニングイベントで、体験イベント「香る花絵馬と足湯」を2日間実施した(2015年8月1日、2日)。道後温泉駅前のカラクリ時計横の足湯に香りのエッセンスを入れて香りの演出をしたほか、椿油を使った石鹸やバスソルトの手作り体験を行った。河原ビューティーモード専門学校の先生、学生さんにご協力いただいて、椿油を使ったリラクゼーション体験も行った。

また、香りの演出イベント「椿の香りでおもてなし」を道後温泉本館・椿の湯(2015年10月1~4日、11月27~29日、2016年2月8日)と、松山空港(2016年3月19~21日)で行った。

これらイベントを通じて、『椿の道後』のブランド化を進めるための下地を作ることができた。また、多くの方々と関わる中で、椿の香りによるまちづくりの可能性を実感した。

第2期（2016）の取り組み内容

□目標

第2期は「『椿の道後』の発展」を主眼においた。まず、「椿の道後」ブランドの商業展開を行うことで、松山市民に椿に親しんでもらう、そして、観光客には松山・道後での思い出を想起してもらい、ことを目指す。

また、「椿の道後」のオフィシャルブランド化を進めるために、「松山市の香り」、「椿の日」制定に向けた働きかけを行っていく。

□実施した取り組み

「椿の道後」ブランドの商業展開を行うために、まずは椿の香りの手作り商品の販売から始めた。椿の香りを使ったリードディフューザーとバスソルト、ジェルキャンドル、フローティングキャンドル、つばきスプレーを手作りして、銀天街土曜夜市、宝蔵寺コンサート、道後温泉夏まつり2016、円満で長寿まつり（道後の円満寺）で販売した。道後温泉夏祭りでは、椿の商品販売のほか、椿の香る書道アート、椿の香る手作り体験なども行った。

□現在進行中の取り組み

商業展開を図るための事業計画を検討しており、10月には未・来 Job まつやま主催の「ミ



ライガクル 創業プラン・ビジネスプランコンテスト」で最優秀賞を受賞した。

また、松山ビジネスカレッジ卒業生の大福理絵さんとともにブランドの名前とロゴのデザインを検討し、「木春」ブランドを立ち上げた。

商品開発事業も並行して進めており、外部発注による商品の製作、販路の獲得（道後温泉旅館協同組合や道後商店街との関係構築）、販売体制、資本金、人材確保の検討を行っている。

今後の展望

「椿の道後」ブランドの商業展開とオフィシャルブランド化を進め、道後でしっかり椿を根付かせた上で、松山市内の観光拠点や交通拠点（松山観光港、松山空港、JR松山駅）でも香りの演出を行って「椿の香るまち松山・道後」を実現させたい。

ご協力頂いた方々

河原ビューティーモード専門学校 / 松山ビジネスカレッジ / 道後旅館組合 / 道後商店街組合 / 伊予つばき協会 / 松山市役所 / 松山空港 / 湊町商店街 / 松山銀天街商店街振興組合

「木春 koharu」ブランド



道後を感じる。道後の記憶をよびさます。情緒あふれる街、下駄の音、足湯。五感で道後を感じてもらう。

木春（こはる）とは、道後のまちの華やかさ、凛と香る存在感、自然の澄んだ佇まい、そんな椿の香りのブランドです。

木春という名前は、椿の字を分解しており、また、椿の咲く時期が旧暦の1月から2月で小春と呼ばれていることから、この名前にした。

ロゴのコンセプトは、椿の花の分かりやすさ、女性らしく親しみやすい丸っこいデザイン、ふわりと広がる香りのイメージを表現している。



椿のおもてなしプロジェクト





三津（みつ）けた！ 私のまちの写真館プロジェクト

写真を通じて三津浜の過去、現在を未来につなげる

大倉颯・黒木航太・高原正樹・玉井詩織

企画概要

三津の写真募集（第1弾）
募集期間：9/30（金）まで
内容：かつての三津の写真の収集

「写真撮影会 in みつはま」（第2弾）
日時：10/8（土）15:00～17:00
10/9（日）10:00～12:00
集合：伊予鉄三津駅
内容：いまの三津を残す写真撮影会

「みつはま『私のまちの写真展』」（第3弾）
日時：10/26（水）～10/30（日）
10:00～17:00
場所：木村邸（松山市三津 1-11-5）
内容：かつてといまの写真展

三津地区の現状



掲載記事（愛媛新聞 10/28）



スケジュール

5/20 9～10月	三津まち歩き 「かつて」の三津の写真 収集
10/8, 9	「写真撮影会 in みつはま」 開催
10/16-30	「みつはま『私のまちの 写真展』」開催

三津浜地区の現状とプロジェクトの目的

三津地区は戦争による被害が比較的小さかったため、明治・大正時代に建てられた建物が多く残っている。一部の有志によって守られているものの、住民の高齢化が進み、空き家のまま放置されている建物も多い。管理する人がいないために貴重な建築物が取り壊されるケースもある。三津の魅力ある風景や歴史を引き継ぐ人が不足しているという現状がある。一方で、商店街ではかつてのような活気がなくなっている。最近では若者を対象にしたイベントが行われているものの、年配者を対象としたイベントが少ない。

また、松山市役所の三津支所の方にヒアリングをしたところ、三津には歴史的価値の高い資料や写真が散逸しており、年々失われていることから、こうした資料を集めてアーカイブ化したらどうかという提案をいただいた。

以上から、私たちは写真を使って三津の歴史や魅力を再発見できるようなイベントを行いたいと考えた。年配者に古い写真をみて当時の思い出話を花を咲かせてもらったり、また、若い世代に対して三津の歴史や魅力を知ってもらいたいということから、コンセプトは「伝承と娯楽の提供」とした。

活動内容

まず第一弾で「かつて」の三津の写真を収集し、第二弾で「いま」の三津を残す写真撮影会を行い、第三弾で「かつて」と「いま」の写真展を開催した。

□第1弾 「かつて」の三津の写真の収集

失われつつある歴史的価値のある写真と資料を集約し、三津の歴史を継承することを目的として「かつて」の写真を収集した。収集手段として、市役所の方にご協力いただき、三津地区の回覧板で300部のチラシを配布した他、プロジェクトメンバーで商店などに直接ヒアリングして古い写真を持っている住民の方を探した。その結果、地元の方3名から合計180枚の古い写真をご提供いただいた。

□第2弾 「いま」の三津を残す、写真撮影会

写真撮影会では「いま」の三津の魅力をカメラのファインダーを

通して再発見していただくことを目指した。広報は回覧板でチラシを300枚配布したほか、地区内の掲示板にポスターを貼らせてもらった。また、商店などに交渉して直接参加者を探した。撮影会に先立って、メンバーでなんども三津に足を運んで、モデルコースを作った。撮影会は2日間行い、参加者は合わせて5名であった。参加者とプロジェクトメンバーは伊予鉄三津駅をスタートして約2時間かけて商店街や古い建築物、名所などをめぐって、写真を撮りながら三津の魅力を再発見した。

□第3弾 「かつて」と「いま」の写真展

現在の三津の風景をみて、年配の方にはその当時の思い出を語り合っていたり、また、若い世代に対しては三津の歴史を知ってもらうことを目指した。

第1弾で地元の方からお借りした「かつて」の写真と、第二弾で撮影した「いま」の写真、合わせて約560点を展示する写真展を三津の木村邸で実施した。最近では見られなくなったフィルムや、古い写真を撮影していた当時に使われていた撮影機材なども展示した。開催直前に場所が決まったため、開催初日の朝まで徹夜で設営作業をすることになった。

広報は三津地区に回覧板で300枚チラシを配布したほか、市内各所にポスターを掲示したり、報道機関へのプレスリリースを行った。

5日間の開催期間中に予想を上回る100名の方にご来場いただいた。年配の方は昔の写真を見て当時を振り返ったり、私たちに当時の三津のことについて教えてくれた。

成果と今後に向けた課題

このプロジェクトの成果として、これまで個人で保管されていた貴重な写真や資料を集約したことで価値ある財産を残していくきっかけが生み出せたことがある。また、写真展の来場者からは「懐かしい思いや、三津の昔を知る貴重な写真を見せていただきました。ありがとう。」(三津浜在住・80代男性)、「昔の風景が現存しているんだなと改めて感じた。」(市内在住・20代男性)といった声があった。

課題としては写真収集の協力者や撮影会の参加者が想定外に少なかったことがある。また、写真展は若者の来場者が少なく、目標としていた歴史の伝承や愛着度の向上につなげるのは難しかった。さらに、写真展の開催場所の確保や広報に注力するあまり、プロジェクトの意義について十分に議論できなかったことも反省点である。

今後、子どもたちに「かつて」と「いま」の三津を語り継いでいくために、第1段から第3弾を踏まえて写真をつかった絵本をつくれないか検討中である。

木村邸



明治14年竣工。夏目漱石が松山に赴任する14年前に建てられた建物ということになる。古いレコードプレイヤーがそのまま残されているなど、内装はほぼ当時のままに残されている。最近まで月2回ほど喫茶店として利用されていたので、年数の割には手入れが行き届いている印象であった。古い建物なので、照明やコンセントが少なく、写真展ができるように照明機材を設置するのに苦労した。

来場者へのアンケート

来場者の方に任意のアンケートをとったところ、来場者の約7割が60代以上の年配者で、10～20代の来場者は少なかった。

また、写真展の情報源については、一番多かったのが新聞、次いで知人から、となっている。回覧板やポスターを見て来たという人も一定数いたので、回覧板とポスターの効果は一定程度あったのかなと思う。

ご協力頂いた方々

渡部裕司さま(平成船出組会長) / 村上純さま(松山西部地域開発協議会会長) / 瀬村要二郎さま(松山港まつり振興会副会長) / 白石さま(松山市三津浜支所) / 大澤健太郎さま(松山市都市整備部都市デザイン課主任) / 光永早織さま(松山市都市整備部都市デザイン課主事) / 大西一成さま(松山市総合政策部坂の上の雲まちづくりチーム三津浜地区活性化担当主任) / 山本彰一さま(松山市総合政策部坂の上の雲まちづくり担当部長付主査) / 谷勝博さま(ハートクロスインターナショナル有限会社) / 藤岡さま(みつはまレトロ) / 渡部裕司さま(平成船組三津浜焼き推進プロジェクト会長) / 岡崎さま(鯛や) / 荒川さま(古写真ご提供者: 越智公行さま / 曾我部等さま / 緑利彦さま) / 撮影会協力者: 石崎隆一さま / 松波将誉さま / その他、三津地区にお住まいの方々

三津（みつ）けた！ 私のまちの写真館プロジェクト



「みつ」けた！私のまちの写真館プロジェクト 第3弾

現存する貴重な
三津の「まち」の写真を

みつは主「私のまちの写真展」

10月26日(水) - 10月30日(日) 10:00 - 17:00

木村邸 三津町1丁目11番

三津のまちを撮影された
いまの三津のまち

入場 無料

主催 三津町教育委員会

協賛 フォトデザインスクール
「三津のまち」写真館プロジェクト
〒599-0002 三津町木村邸11番
電話 059-763-2321 Mail: info@photo-design-school.jp

まつトラムラリー

松山のトラムを使ってクイズラリー

川崎一歩

タイトル

日時：10/16（日）10:00～17:00
受付場所：道後温泉駅広場
対象：誰でも参加可能（親子連れ歓迎）
定員：50名程度
料金：大人 500 円 / 小児 250 円（市内電車 1 Day チケット代）
内容：伊予鉄市内電車を利用して松山の歴史や地理、美味しいものに関するクイズを解き、正解者には道後温泉入浴券をプレゼント。

まつトラムラリーとは

まつトラムラリーは、松山の路面電車（トラム）を使ってクイズラリーをするという企画。

まつやまのトラムでクイズラリー



まつトラムラリー

クイズ例

〇〇〇に何が入る？

最寄り電停：上一万

六角堂常楽寺には狐と〇〇〇が祀られています。

最寄り電停：南町

県民文化会館東側の「俳句の道」（赤色矢印の道）には「永き日や〇〇〇うつつて分れ行く」という夏目漱石の句碑があります。



スケジュール

8~9月	クイズ作成
9月	チラシ、スクラッチカードの作成
10/16	まつトラムラリーの実施

背景と目的

松山市では公共交通の利用が低下しているが、その原因として、どの電車に乗ったらいいのかわからない、乗り方がわからないなど、利用方法を知らないという問題があるのではないだろうか。一方、子どもたちが外で遊ぶ機会は少なくなっており、松山のまちへの関心も薄れてきているのではないかと考えられる。

以上の問題認識から、路面電車を使ってまちなかでクイズラリーを実施することで、公共交通に乗るきっかけを作ったり、楽しみながら松山のまちについて知ってもらう機会を作りたいと考えた。

遊び方

参加者にはスクラッチカードとクイズ集を配布する。カードにはスクラッチが5行3列並んでおり、各行3つのスクラッチの中から1つを選んで削ってもらう。出てきた番号に該当するクイズに答えるために、路面電車を使ってヒントのある駅まで行ってもらい、クイズ集のクイズを解いてもらう。

準備

まず、クイズの作成にとりかかった。UDCM スタッフや学校の先生方、観光ボランティアの方に協力してもらいながら、本を読んだり、まち歩きをして、松山の歴史や地理、文化について学び、クイズを作成した。続いて、スクラッチカードとチラシを学校生の帽子さんに作成してもらった。伊予鉄道さんには作成したクイズ、スクラッチカード、チラシを持って実施許可・協力依頼のお願いに伺った。また、クイズになっている商店からの許可も得た。イベントの日時が決まると、広報まつやま等で広報を行った。

実施

事前予約は17名だったが、当日参加者も加わって31名の参加があった。親子連れから年配者まで幅広い世代にご参加いただいた。

10時に道後温泉駅広場に集合して、スクラッチカードとクイズ集、伊予鉄1Dayチケットの配布を行い、遊び方の説明を行った。当初

予定では個別にスタートしていただくことになっていたが、企画者とUDCMの松本シニアディレクターによる歴史の解説などを聞きながら一緒に回る参加者も複数いた。子ども達が率先してヒントの場所を探したり、歴史の解説を聞いたりといった姿が見られた。13時までには全ての参加者が全問回答して最終目的地であるUDCMのぼるテラスに集合した。答え合わせとアンケートの記入をしていた後で、道後温泉入浴券をプレゼントした。

効果と課題

クイズのヒントのある駅を路線図を見て自分で探してもらったため、「路線図の見方が分かった」、「どの電車がどこに行くのかを理解した」、「路面電車の使い方が分かった」など、路面電車の使用方法についての理解を広められたのではないかと考える。また、伊予鉄1Dayチケットの存在を初めて知った、あるいは初めて使ったという人がほとんどであったが、「こんなに便利なものがあったのか」、「初めて使ってみてとても使い勝手が良い。これからは家族で使ってみたい」といった声があった。さらに、「松山の歴史がよく分かって勉強になった」、「地元に住んでいるが普段見えない新たな面が発見できた」、「もっとほかの場所も回ってみたい」といった声など、松山への興味関心を持ってもらえたのではないと思う。電車、まち歩き自体が楽しかったという声、また企画があれば家族で参加したいという声もあった。

課題として、広報が直前になったため周知が十分でなかったこと、また、参加費自体は無料だったものの1Dayチケット代として500円が必要とチラシ等を書いてしまったため、参加者を十分に確保できなかったことがある。「イベントの周知がもっとあれば友達にも声をかけたかった」という参加者の声もあった。また、当初は小学生を対象に考えていたため、クイズの難易度を下げる工夫をしたものの、「クイズが難しく、子ども向けではない」という声があった。

今後に向けて

今回は市内電車を使ったが、郊外電車やバスを使ってより広い範囲で行うことも可能だろう。また、今回は歴史に関するクイズが多かったが、例えば、美味しいお店や面白い場所など多様なジャンルのクイズを作ることでもできる。またそうすることでより興味をもって公共交通の利用促進に繋げていくことができるのではないかと。

さらに、例えば、高齢者による自動車の免許返納に向けて高齢者に公共交通に慣れ親しんでもらう機会を作ったり、婚活や移住促進と絡めたり、交通事故問題に関心を持ってもらう機会を作るなど、様々な展開方法があるということが実際にやってみて分かった。

スクラッチカード



伊予鉄1Dayチケット

市内電車乗り放題のフリー乗車券（大人500円、小児250円）でいよてつ高島屋大観覧車「くるりん」の通常ゴントランにも無料で乗れる。いよてつチケットセンター（松山市駅）、伊予鉄トラベル（まつちかタウン・大街道営業所）、市内電車内などで購入できる。



ご協力頂いた方々

岩井仁茂さま / 伊予鉄道株式会社 / 株式会社六時屋 / 労研饅頭たけうち





名もなき公園プロジェクト@柳井町商店街

地域住民の交流の場をつくりたい

佐藤萌美・瀧本和誉・姫井大輝・廣恵なつ美・毛利彩希

活動目的

アクションを通して、地域に内在する交流のつながりを強くしたり、新たなつながりを作ることではできないだろうか、という問題意識が私たちの原点。アクションは一回限りのイベントではなく、もっと根本的なところからできればいいなと思って活動を始めた。



ふるとうぐ市



名もなき公園の清掃



スケジュール

5/15	まちあるき
6/19~7/5	聞き込み調査
8/6	ふるとうぐ市のお手伝い
8/24	柳井町理事会でご挨拶
9/2	公園の清掃活動を開始
9/21	町内のいもたぎに参加
10/2	秋祭りに参加
11/3	路地裏映画館の開催

まちあるきと聞き込み調査

河原町や柳井町でまち歩きをしている時に、柳井町商店街の一角にある公園を見つけた。この公園はそばを多くの人が通っているものの、手入れが行き届いておらず、また、名前がないということで私たちの気を引いた。私たちはこの公園を整備しながら活動しようと決めた。まず公園についての聞き取り調査を行い、商店街の方々から、かつては地域の花見やお祭りに使っていたこと、現在は商店街の理事長さんが公園の管理を行っていることを教えてもらった。

ふるとうぐ市のお手伝い

柳井町商店街に通う中で、商店街で古本屋を営んでいる浮雲書店さんから「今度イベントをするから手伝ってみたいなか」と声をかけられた。地域の方々と一緒に、会場となる商店街内の空き地の草抜きから始めた。準備を進める中で、商店街内の洋服屋さんや金物屋さんにも声をかけてもらったり、差し入れをいただいたりした。

イベントは柳井町内外からのお客さんと賑わった。そこでは、空き地の所有者である湯川さん、商店街理事長の渡部さんと知り合うことができ、商店街の理事会に参加させていただくことになった。

柳井町理事会にてご挨拶

理事会では、公園整備からまちづくりに関わりたいという気持ちをお伝えした。しかし、なかなか理解を得られず、「ボランティアと何が違うんだ？」という声もあった。理事長さんが「一回やらせてみましょう」と言ってくれ、公園整備を始めることになった。

公園の清掃活動

まずは公園の草抜きから始めた。蚊がたくさんいたり、週一回の草抜きでは雑草の伸びるスピードに追いつかないなどの苦労もあったが、公園向かいのクリーニング屋さんから「いつもありがとう」とジュースの差し入れをいただいたり、浮雲書店さんが草抜きに参加してくれたりした。公園整備に通う中で、理事長さんから「今度、いもたぎがあるから是非参加してみないか」とお誘いいただいた。

町内のみなさんと「いもたき」

いもたきを作ってくださった婦人会の方々に活動を知ってもらう機会になった。商店街の方が「この人たちがいつも公園を掃除してくれているんだよ」と紹介してくれ、他の方々からも「見たことあるよ」、「いつもありがとう」という声をいただいた。理事長さんに地域子どもたちとも仲良くなりたいとお話したところ、「今度秋祭りで子ども神輿があるから来てみない？」とお誘いいただいた。

秋祭り、子ども達とお神輿

地域の行事によそ者が参加するのはどうなんだろう、という気持ちもあったが、子ども会の正岡さんに「今は若い人が少なくなっていてぜひ手伝って欲しい」と言っていたので、秋祭りの準備から参加させていただいた。大人の方から「人出が増えて助かる」という声をいただいたが、子ども達は最初不審がっていた。しかし、朝早くから一緒にお神輿を担ぐなど、長い時間過ごしたことで、子どもたちとも徐々に仲良くなり、最終日には一緒にサッカーをした。

秋祭りに通う中で、理事長さんから「イベントはしないのか？」と聞かれ、やはり学生が地域に入るということでイベントを行うことが期待されているのかなあと感じるようになった。

路地裏映画館 in 柳井町商店街

そんな時、「路地裏映画館」プロジェクトの場所が見つからないという話があったので、柳井町商店街でやったらどうかと提案し、理事長さんにもご相談して、開催することになった。

「路地裏映画館」グループから、イベント当日に柳井町商店街の方に食べ物売って欲しいという要望があった。しかし、商店街内には食を扱うお店が少ないので、「ふるどうぐ市」に出店された方や婦人会の方々にお願いして協力してもらうことになった。

開催前日には会場隣の赤飯屋さんが看板を手作りしてくれ、また、電気屋さんには「(電気なら)いくらでも貸すから何でも言ってこい」と言ってもらうなど、多くの人に応援してもらった。

開催当日には私たちがこれまで関わってきた柳井町の人がたくさん来てくれた。婦人会の方が作ってくれたおでんも完売し、「また今度もよろしくね」と言ってもらえた。

活動を振り返って

活動を振り返ると、個人のつながりが、商店街、町内、町外へと広がっていったことが分かる。これは個人と個人の活動がしっかりベースにあることで、地域の活動が生まれ、さらに路地裏映画館のような新たな活動につながったのだと思う。私たちは「つづく」。

秋祭りでお神輿



婦人会お手製おでんの販売



活動の展開



個人個人のつながりを大切にすることで様々な活動につながった。

「まちづくり」像



個人と個人の活動がベースにあることで、地域の活動、新たな活動が生まれる。

ご協力頂いた方々

ステクルさま / 浮雲書店さま / ヤング宮本さま / 武智さま / 来島金物さま / 湯川住み方研究所さま / 器屋 独歩さま / ヨシナガ電器さま / クリーニング屋さま / 春玉堂さま / enowaさま / mamipanさま / 柳井町にお住いの皆様





名もなき公園プロジェクト @ 柳井町商店街



Family's Story プロジェクト

親子の思い出づくりにたずさわりたい

小川直史・黒田紫帆里・東川祐樹・藤澤拓夢・三浦舞

イベント概要

「親子でつくってみよう!! ストップモーションムービー」

日時: 11/3 (木) 13:00 ~ 16:30

場所: 松山アーバンデザインセンター・柳井町商店街

対象: 小学生の子どもをもつ親子 (5組、事前予約)

内容: ①脚本・撮影・編集すべてを親子で体験してみる、②各親子1分程度の映像を作成し、それぞれをつなぎあわせて6~7分のミニムービーをつくる。

親子ですごす時間

子どもと長い時間ふれあえるのは部活やバイトがない幼少期・小学生のあいだだけ。



親子のすごし方

親子で一緒にすること (複数回答)

1位 デパートやスーパーなどへ買い物に行く 86.6%

2位 テレビを見て、話し合ったりする 78.7%

3位 外へ出て食事をする 59.8%

親子で一緒にすることは日常的なのばかりでお祭りのような印象に残る体験の機会には多くはない

おとなの休日のすごし方

Q. 休日のすごしかたに満足していますか?

【満足していない 48%】

- ・時間を無駄にすごしている
 - ・掃除や子育てに時間を取られる
- 子育ての時間を子どもとの大切な思い出を作る時間にできないか。

スケジュール

10月 - イベント準備
11/3 「親子でつくってみよう!! ストップモーションムービー」実施

目的

みなさんは子どもだったころの思い出はありますか? 楽しい思い出を思い出すと、自然と笑顔になり、心がほっこりしますよね。また、親子の共通の思い出は親子の心のつながりの一つではないでしょうか。私たちは自分たち自身の思い出を思い返す中で、「親子の思い出づくりに携わりたい」と強く感じるようになった。私たちのグループは、「親子の思い出になる機会の提供と記録」を目的に何か活動ができないかと考えた。

ストップモーションムービーって?

私たちは「親子の思い出になる機会の提供と記録」を実現するための方法として、ストップモーションムービーに着目した。ストップモーションムービーとは、一コマずつ少しずつ動かして写真を撮影し、それらをつなげて再生することで動いているように見せる技術のことで、写真で作るパラパラマンガのようなもの。例えば、ジャンプした写真を3枚撮ったとして、これをつなげると空を飛んでいるような写真になる。



当日の流れ

小学生の子どもを持つ親子5組を募集したが、周知不足もあり当日は2組の参加であった。

① ストーリーを考える

松山アーバンデザインセンターのもぶるテラスで、Youtube にアップされている高校生が作成したストップモーションムービーの動画を見ながら親子にイメージしてもらい、しなりおを作成するためのサポートシートを使って、ストーリーの内容、配役、衣装を決めた。

② ムービー撮影

柳井町商店街に移動して写真撮影を行った。2組の親子のうち、一方はお母さんが悪の魔女役で、見習いの魔女役の娘さんが魔法を使ってお母さんを倒すというストーリー。もう1組は、お母さんの魔女と2姉妹の見習い魔女が魔法を使って悪の妖怪を倒すというストーリー。

③ 映像の編集、試写会

もぶるテラスに戻って編集と試写会を行った。まずは、親子と一緒にアプリを用いて編集を行った。子ども達と一緒に BGM を選んだり、エンドロールを作成した。編集した動画は試写会をして、DVD に焼いてプレゼントした。後日、事前撮影したオープニング、各親子の映像をつなぎ合わせた完成版を DVD にして郵送した。親子の思い出に残ったらいいなあという気持ちを込めて手紙や写真、イラストを入れた。

子ども達が「とても楽しかった」と終始笑顔で参加してくれ、お母さんたちも「子どもが大人になってこれを見た時にすごくいい思い出になるよね」と言ってくれたので良かったと思う。また、ムービーの企画から撮影、編集まで親子に携わってもらうことでムービー制作のノウハウ

を提供できたと思うので、休日に自宅で親子で作ってもらえれば嬉しい。

今後の展開

2 つ目の企画として、「親子で映画の主人公になろう」という企画を考えている。ムービーの制作だけでも十分親子の思い出になるが、プロに撮ってもらい、本物に触れることでより印象に残る思い出になるのではないだろうか。

企画概要として、少し暖かくなった3月18日、19日、20日の3連休に、中学生の子どもを持つ親子を対象に、プロの方に脚本、撮影、編集に携わって頂き、親子で一緒にムービー制作を行う。親子で主人公になってもらい、印象に残る思い出を作ってもらえたらいいなと考えている。完成した映像は後日参加者に郵送し、どこかのタイミングで公開配信し、参加者に参加して良かったと思ってもらえるようにしたいと考えている。

ご協力頂いた方々

柳井町商店街 / 松山市役所 / ヒメブタの会 / 愛媛大学演劇部



① ストーリーを考える



② ムービー撮影



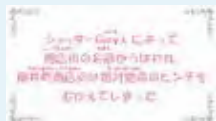
③ 映像の編集、試写会



④ DVD にして郵送

あらすじ

にぎわいあふれる商店街。しかし、悪の組織『シャッター Guys』の出現によって全国の商店街がおそわれるようになってしまった。そして、次の標的になったのが柳井町商店街。『シャッター Guys』によって柳井町商店街の看板から名前が奪われ絶体絶命のピンチをむかえてしまう。そこで立ち上がった3人の見習い魔女たち。彼女たちにはにぎわいあふれる商店街をとりもどすことができるのか...



シャッター Guy



3人の見習い魔女





親子でつくってみよう!!
ストップモーションムービー

参加無料!!
要事前予約!!
(定員30名)

2016.11.03(木) 13:00 ~ 16:30

対象：小学生のこどもを持つ親子
受付場所：松山アーバンデザインセンター

絵や写真を動かしてストップモーションムービーの動画・撮影・編集を体験するイベントです。子供と家族で参加し、家族写真や絵、おもちゃ、それ以外の物などをつかって作ります。作成した動画を上映します。

ストップモーションムービーとは?

写真や絵を1コマごとに少しずつ動かして写真を撮り、それをつなげて再生することで、あたかもその瞬間が動きだしているように見える動画を作ります。この方法を覚えて、下の絵のように空を飛んでいる鳥を撮影することが出来ます。

親子で映画監督になって、脚本・撮影・編集を体験してみよう!

日時開催!!
路地裏映画館
2016.11.3日 17:00-21:00

松山アーバンデザインセンター
住所：松山市錦町2丁目7番地 13
Tel: 089-946-1341
Mail: urban.design.ichiro@gmail.com
申込の順に、参加・観覧人数・参加費を定めます。



Family's Story プロジェクト



路地裏映画館 in 柳井町商店街

空き地を市民にとって豊かな空間に

小根國裕美・三好花保

イベント概要

「路地裏映画館 in 柳井町商店街」

日時：11/3（木・祝）17:00-21:00

場所：柳井町商店街

内容：柳井町商店街を1つの映画館として見立て、2箇所の空き地で子どもからお年寄りまで楽しめる映画を4作品上映する他、近隣の方による美味しいグルメ屋台が登場する。

まち全体を映画館に！



会場：柳井町商店街



スケジュール

7月・10月上旬	利用できる空地を探す 広報、上映作品の決定・ 借り入れの手続き
10月下旬	地元への協力依頼、買出し等
10/26、11/2	映画の試験上映
11/3	路地裏映画館の開催

ねらいと企画内容

松山市の中央商店街周辺には、駐車場や空き地などの低未利用地が増加している。また、商店街には多くの人通りがあるものの、路地裏は人の往来が少ない。一方、路地裏にはこだわりのあるお店があり、ポテンシャルのある空間である。

以上から駐車場や空き地などの低未利用地を市民にとって豊かな空間にしようと考えた。数力所の駐車場や空き地を使い、周辺の店舗を巻き込んで、まち全体を映画館に見立てるということ考えた。場所がなかなか決まらなかったが、柳井町商店街で継続的に活動している「名もなき公園@柳井町商店街」グループから柳井町ではどうかという提案をいただき、柳井町商店街で行うことになった。

準備

□広報

イベントの広報を早急に行う必要があったため、開催趣旨やタイムスケジュール、出店店舗などを確定してポスターを作成した。また、松山経済新聞、ウィークリーえひめリックでも広報を行った。

□上映の準備

上映4作品のうち、1作品は松山で自主制作映画を作っている「ヒメブタの会」さまから「食堂ゆすかわ」を無償でお借りし、他の3作品はムービーマネジメントカンパニーさまから「ナニー・マクフィーと空飛ぶ子ブタ」、「メアリーと秘密の王国」、「長づつをはいたネコ」をお借りした。

映画の試験上映を10月26日にみんなのひろばで、11月2日に実際の会場で行った。機材をすべて揃え、画面と音のチェック、通行量の確認などを行った。

□地元への協力依頼

「名もなき公園@柳井町商店街」プロジェクトグループに、柳井町商店街理事会、上映会場となる土地の所有者や利用者の方々を紹介してもらい、一緒にご挨拶と協力依頼に伺った。

□その他

当日必要な備品の購入や機材の手配も進めた。

当日の流れ

□当日の準備

13時に集合して、荷物を会場に運んだり、サイリウムを使った看板の制作、試験上映、キャンドルの準備などを行った。また、上映会場にゴミ箱を設置したほか、地面にダンボールとレジャーシートを重ねて敷いて、少しでも居心地の良い空間になるよう工夫した。

□上映

17時に上映開始予定だったが、暗さが十分でなかったため、30分ほど遅らせてスタートした。18時50分の時点で2箇所の上映会場にはそれぞれ22人、45人の来場者があり、屋台で購入した食べ物や持参した食事を食べながら映画を楽しんでいた。

□片付け

上映会終了後に、商店街や出店していただいた店舗の方に手伝ってもらって、ゴミ捨てや機材の回収を行った。

効果と課題

イベントの周知が十分でなく、また、寒い時期の開催であったにもかかわらず、想像以上の方にご来場いただいた。暗い中での開催だったため、記入式のアンケートをとれなかったが、来場者からは「また開催されるならぜひ行きたい」、「もう少し暖かい時期にぜひしてほしい」という声があった。

開催場所と上映作品の決定が遅くなったため、情報発信の時間があまりとれず、十分な周知を行えなかった。また、開催時期が11月までずれ込んだため、気温が下がり、終了時間に近づくにつれて入場者が減っていった。開催時期をずらすか、こたつを設置するなど寒さ対策をすべきであった。さらに、当日は上映開始予定の17時にはあまり暗くなっておらず、映像がスクリーンに映らなかったため、開始時間を30分程度遅らせて来場者をお待たせすることになってしまった。また、駐車場とトイレの場所をチラシに記載したものの、商店街内での掲示が十分でなかったことも課題である。

今後の進め方

今後継続するには、資金繰りを考える必要がある。今回応援箱を準備したが、応援金と飲食店での収益と、イベント開催に係る費用との調整はなかなか難しい。上映作品のレンタルが1本/35,000円〜で、自主制作映画が無料であることを留意する必要がある。また、地域の方々を巻き込んで資金を募ることも可能性としてある。

近隣店舗への協力依頼をもっと積極的に行って出店屋台を増やし、また、他のイベントと合わせて開催することで、集客を増やし、さらに良いイベントにしていきたいと考えている。

ライトアップ



ペットボトルでキャンドルホルダーを制作。柳井町商店街と上映会場に並べて路地裏空間の魅力を高めた。

シアター2の様子



看板アンケート

5段階評価（5が良くて1が悪い）でシールを貼ってもらったところ、子どもたちが遊んでしまい。。



費用

【準備費】		
・ 映画のレンタル	200	2,700
・ 映画の印刷、複製代	500	3,200
・ 上映用シート	4	632
・ 飲み水	1	700
計	105	6,832

【上映当日のレンタル】		
・ メアリスの上映	1	35,000
・ 映画の複製代	1	37,000
・ 印刷代	1	37,000
計	3	111,000



応援ボックスにて、3,570円の寄付を頂きました。

ご協力頂いた方々

柳井町商店街の皆様/ヒメブタの会さま/株式会社ムービーマネジメントカンパニーさま

路地裏映画館 in 柳井町商店街



路地裏映画館 in 柳井町商店街





ジモティ Life 松山

移住者のコミュニティをつくり、松山での暮らしを豊かに

網本有花・今村勇貴・岩崎由季・高木悠里・帽子紗貴

イベント概要

「広島県民会〜みかん de 交流会〜」

日 時：12月4日（日）11:00～14:30

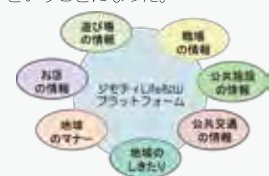
場所：あんじゅ・ここん

対象：松山在住の広島県出身の学生・社会人

内容：愛媛県産のみかんを使ったスイーツの手作り体験を行いながら、参加者同士で交流を深めてもらい、後のワークショップで松山や、広島のことについて話してもらう。

中間発表からの変更点

中間発表の段階では、インターネット上で口コミ交換や悩み相談できるような場を作るという提案を行ったが、すでに類似サービスがあったほか、費用や継続性の問題などがあったため、リアルな場でやってみようということになった。



参加条件の設定理由

- ・学生であること
同じ出身地の学生コミュニティは少なく、移住者対策として対象になることもない。また、コミュニティを作るには年齢差が小さい方がよい。
- ・広島県出身であること
愛媛大学と松山大学の出身地を調べると、1位愛媛県、2位広島県、3位香川県であり、広島県から移住してきた大学生は年間約350人いる。数が多いことから対象とした。

スケジュール

6/14	松山市シティブロモーション課ヒアリング
10/13	みかんスイーツ試作
11/24	「広島県民 かん de 交流会」開催
12/4	

目的

県外から転勤や進学等で松山に来た方に対して、松山の暮らしを豊かにする為の情報交換を行ってもらう。本プロジェクトは、情報交換を行ってもらうためのコミュニティ作りの場を提供する。そのために、特定の移住者が集まるイベントを開催することにした。

問題意識

私たちのグループは社会人が2人、学生が3人だが、その内3人が他県からの移住者であったため、移住者に対して松山を好きになってもらう取り組みはあるのだろうか、という点が気になった。そこで、移住促進を行っている松山市のシティブロモーション課にお話を伺いに行ったところ、取り組みのほとんどが将来松山に住みたいという県外の人が対象であり、大学生や転勤者などの短期的な移住者に対する取り組みはまだできていない、ということを知っていただいた。そのため、自分たちのような短期的な移住者に対して、松山での暮らしをより豊かにし、松山をより好きになってもらう取り組みを行うことで、松山での定住につなげられないかと考えた。

では、松山で楽しく暮らすためには何が必要だろうか？私たちはローカルな情報が必要なのではないかと考えた。移住直後は観光者気分ですら松山城や道後温泉について知りたがるものだが、しばらくすると美味しいお店の情報など生活に関連する情報が欲しくなる。香川県民が美味しいうどんの店の情報を知りたいといったような県民独自の情報もあるだろう。こうした情報はwebやパンフレットなどがあるものの、やはり周りの人の声など口コミが一番手軽で信頼できる。そこで、私たちは移住者が口コミを得られるようなコミュニティ作りの場を提供しようと考えた。



みかんスイーツの手作り体験（午前）



試食＆ワークショップ（午後）

事前準備

スイーツ作りの試作を2・3回行った。また、昼休憩の際に利用してもらう、ランチのできるお店のマップや、本イベントで作ったスイーツのレシピも作成し配布した。



実施

学生4名、社会人2名の方に参加頂いた。ただ、その中で広島出身者は3名であった。午前中のスイーツ作りは、ほぼみかんの皮をむいてもらう作業が中心であった。淡々と作業しながら、会話も楽しんでもらえたように感じる。午後のワークショップも、広島県民同士で、地元の高校などについてや、地元の人だからこそできる会話ができていた為、本当に楽しそうな様子が伺えた。広島県以外の人も、現松山在住という点では共通している為、松山に来て感じたことや、通じなかった方言について等会話を楽しんでいた。何より参加者の方から「次はないんですか?」「こんなイベントあったらいいなって思ってたんです。」といった声が頂けた為、開催側の私達からすると、これほど嬉しい言葉

はないと感じた。

反省点

広報のミスにより事前予約の2名の方が14時過ぎからイベント参加となってしまった(イベント開始時間の記載がHPとチラシで異なっていた)。また、ワークショップで、1つの話題に対して話してもらう時間等を考えておらず、行き当たりばったりになってしまった。その為イベント時間も16:30まで延長してしまうこととなってしまった。

今後の課題

アンケートからも「また来たい。」といった声を頂き、需要のあることが実感できた為このような交流会は継続的に実施する必要があると感じられる。コミュニティを作ってもらうことを目的としていたが、1度のイベントのみでは困難である。LINEでグループも作成してもらった為、このコミュニティを利用してイベント情報等を流し、次回以降のイベントの参加者集めに活用していきたい。また、特定の県民から見た松山市についての情報は、移住促進を進めていく上で有用な情報となりうるため、参加者からうまく引き出して蓄積していくことが重要であり、広島県だけでなく他県への展開の可能性が開けてくる。

ご協力頂いた方々

千海克啓さま(松山市シティブロモーション課)/板垣義男さま(えひめ移住コンシェルジュ)/あんじゅこんさま

みかんスイーツのレシピ

みかん コム

★材料

みかん お好きなだけ
さとう お好みの量にしてください

★作り方

- ① みかんを洗って乾燥した 金網にのせる
- ② 裏面に出して乾かす
- ③ 乾燥したら厚さを切る
- ④ 煮る中に みかんの皮を 入れの砂糖を煮る
- ⑤ 金網に乾燥させた中火・弱火でコトコト煮る
- ⑥ 煮終わったら完成

みかんヨーグルトアイス

★材料 (4人分の分量)

ヨーグルト 400g
砂糖 100g
みかん 1個

★作り方

- ① みかんの皮を洗って乾燥させる
- ② 煮る中に みかんの皮を 入れの砂糖を煮る
- ③ 煮終わったら中火・弱火でコトコト煮る
- ④ 煮終わったら完成



ジモティ Life 松山



UDSM 第2期生 卒業おめでとう!





UDSM 第2期生

青山	恒佳
網本	有花
今村	勇貴
岩崎	由季
大倉	颯
小川	直史
川崎	一步
黒木	航汰
黒田	紫帆里
小根國	裕美
佐藤	萌美
高木	悠里
高原	正樹
瀧本	和誉
武井	泰子
竹中	優子
田所	佳奈
玉井	詩織
東川	祐樹
姫井	大輝
廣恵	なつ美
藤澤	拓夢
帽子	紗貴
三浦	舞
三好	花保
村上	千空
毛利	彩希
柳原	捷吾
渡部	千恵美

アーバンデザインスクール運営委員会から



畔地 利枝

聖カタリナ大学人間健康福祉学部教授

松山について、仲間と共に調べたり、まとめたり、報告したり…。これまで以上に松山の魅力に触れ、大好きな場所になったことと思います。これらの経験が今後の糧になると信じています。



小野 悠

愛媛大学アーバンデザイン研究部門助教

つかみどころのない「まちづくり」に対して、自分なりの答えを見出そうと悩み、考え、行動してきたことは、みなさんの将来の大きな糧になることと思います。みなさんと一緒にいた時間はとても刺激的で幸せでした。1年間ありがとうございます！



片岡 由香

愛媛大学社会共創学部助教

アーバンデザインスクールを卒業したからといって直ぐにスペシャリストになれるわけではありませんが、自ら企画・実践を経験されたみなさんは、まちづくりのおもしろさや厳しさが少し理解できたのではないかと思います。この経験を活かして今後のまちづくりにどんどん参加して下さい！



河内 俊樹

松山大学経営学部准教授

第2期生のみなさん、こんにちは。およそ1年かけて取り組んできたまちづくり活動も修了を迎えましたが、“有終の美”を飾ることができたでしょうか？ スクールで得られた唯一無二の経験を活かして、ぜひ社会で還元してくれることを願っております。今後のご活躍を期待しております！



直井 玲子

松山東雲女子大学人文科学部講師

大学や職業の枠を越えて「まちづくり」をテーマに集った皆さんと一緒に時間は、仕事のために単身東京からやってきた私にとって、実に幸せな学びの多い楽しい時間でありました。まだどこかで一緒にできること楽しみにしています！



羽鳥 剛史

愛媛大学社会共創学部准教授

どのプロジェクトも、難しいテーマに粘り強く取り組み、最後までやり遂げましたね。是非、これからもそれぞれのフィールドにおいて、地域社会のために貢献していただけることを期待しています。ご卒業おめでとうございます！

発行
2016.12

監修
小野悠
小川直史

フォト
大倉颯

デザイン
帽子紗貴

